

<小学校 国語>

考え方広げたり、深めたりする「読むこと」の学習指導の工夫 —文学教材の重ね読みと考えの相互交流を通して—

知念村立知念小学校教諭 池 城 路 子

内容要約

考え方広げたり深めたりする力をつけるために、文学教材の学習において、教科書教材とそれに関する他の読み物の重ね読み・比べ読みなどの学習活動を取り入れた。さらに、読み取ったことを友達やクラスで相互交流する場を設定した。また、目的意識を持ち、主体的に読み進めるために、アニメーションなどの読書活動を取り入れた。

その結果、いろいろな視点から考えを関連付けて考えるようになり、考え方広げたり深めたりできるようになった。

【キーワード】重ね読み 比べ読み 相互交流 読書活動 アニメーション

目 次

I テーマ設定の理由	21
II 研究内容	22
1 「読むこと」の意義	22
2 「読解」と「読書」	22
3 考えを広げたり、深めたりする読みの工夫	24
4 多様な活動を取り入れた学習過程の工夫	25
III 授業実践	25
1 単元名	25
2 教材名	25
3 単元設定の理由	25
4 単元の指導目標	26
5 単元の指導計画と評価計画	26
6 本時の指導	27
IV 研究全体の考察	29
1 重ね読みで考え方広げたり深めたりできたか	29
2 相互交流で考え方広げたり深めたりできたか	29
V 研究の成果と今後の課題	30
1 研究の成果	30
2 今後の課題	30

<小学校 国語>

考え方広げたり、深めたりする「読むこと」の学習指導の工夫 －文学教材の重ね読みと考えの相互交流を通して－

知念村立知念小学校教諭 池 城 路 子

I テーマ設定の理由

教育課程審議会(H10.7)の答申における国語科の改善の方針の中に「特に、文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導のあり方を改め、自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ能力を育てることを重視する。」とある。また、領域構成については、「A 表現」「B 理解」[言語事項]の2領域1事項から、「A 話すこと聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」及び[言語事項]の3領域1事項に改められた。

特に読むことにおいて、読書活動を重視する背景には、今日の情報化社会に対応し、様々な情報から取捨選択して課題を解決する力、考え方広げたり深めたりするために複数の資料を活用する力、目的意識を持って読む力の育成が求められている。こうした読書力は、読書活動を通して育成されるものであり、国語科の「読むこと」の授業において読書をどのように位置付けるかが課題となっている。

ところで、これまでの国語科指導の実践を振り返ってみると、文学教材の指導においては、教師自身の教材解釈を児童に押しつけることがあった。また、どの学年でも、どの文学的な文章でも基本的には同じような画一的な指導となり、場面分けをしたり、登場人物の心情を捉えたりという読み取りに多くの時間をさいた授業であった。発展としての読書は個人任せになっていた。そのため、作者の生き方や考え方まで広げたり深めたりするには至らなかった。

しかし、高学年の児童は自己の内省化も進み、他人とのかかわりについて悩みなども深刻に抱き始める時期である。この時期に、物語に登場する人物像について、心情や性格、考え方など多面的にとらえ、登場人物に同化したり共感したりしながら、人間の生き方、心の持ち方がわかり、自分の人生観・世界観を確立していくことが大事である。そのためにも、読書を通して人生の生き方を考えさせることは意義深いものである。

第5学年及び第6学年における「読むこと」の目標として、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようになるとともに、読書を通して考え方広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」とある。その目標を達成するために「自分の考え方広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。」「登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。」など、読書活動を充実させることや、作品を深く読み味わう力の育成が重視されている。

そのことからして、文学教材の指導においては、教科書教材にとどまらず、並行読書や重ね読みなど、いろいろな作品を進んで読む読書活動を充実させていくようにすることが大事である。また、作者への関心を高めたり、さらに考え方広げたり深めたりするためにも、同一作者の作品や同一テーマの作品を読み、作者の思想や生き方を意識して読む読書活動の体験も大切である。そして、自分なりに読み取ったことを友達やクラスで相互交流することで、さらに自分の考え方広げたり深めたりすることができる。

そこで、文学教材の指導において、同一作者の作品の教科書教材とそれに関連する他の読み物の重ね読み・比べ読みなどの学習活動を取り入れたり、お互いに考え方を交流し合う場を設定したりすれば、読みを広げたり深めたりすることができると考え本テーマを設定した。

<研究仮説>

文学教材の学習において、教科書教材とそれに関連する他の図書の重ね読み・比べ読みを取り入れ、考え方を交流する場を設定すれば、児童は考え方広げたり深めたりすることができるであろう。

II 研究内容

1 「読むこと」の意義

(1) 「読むこと」の目標

第5学年及び第6学年は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようになるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」とある。「読むこと」の領域のキーワードは、「読書」である。児童自ら進んで書物を読むような資質を持つことが読むことの究極な目標である。読書の目的は、楽しむため、何か話すため、調査研究のためなど多様であり、疑問や課題など問題意識を持って書物を読む態度の育成が重視されている。

指導にあたっては、児童の興味・関心、学習パターンなどの実態をよく把握し、主体的な言語活動ができるように授業を工夫する。

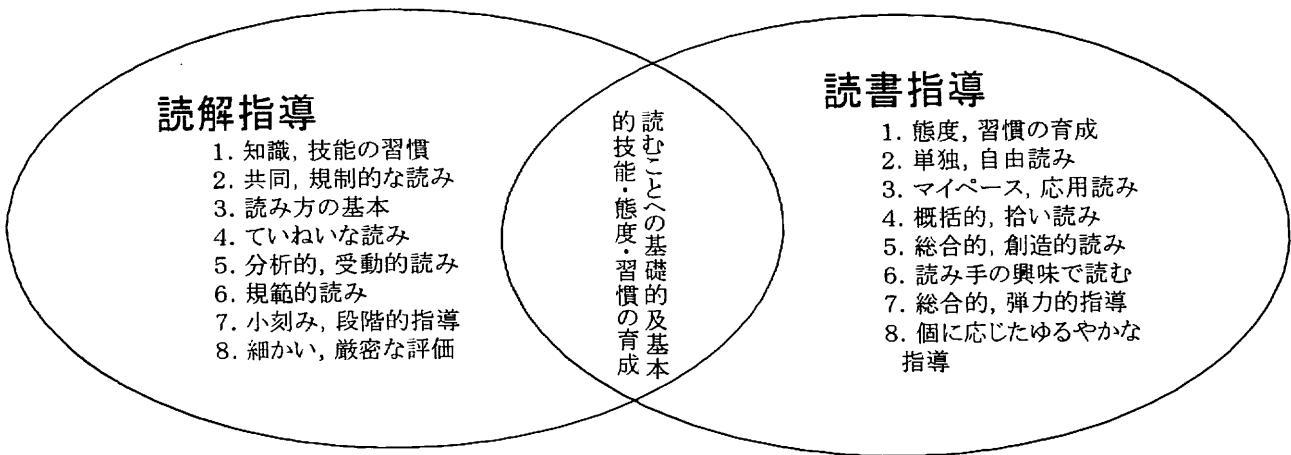
(2) 指導内容と指導ポイント

内 容	指導のポイント
ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。	・読書に関わるものであり、主体的に書物を選び活用すること。
イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えること。	・読むことの能力に関して示してあり、児童の主体的な言語活動を重視する面からも、必要感や目的意識が重要。
ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。	・文学的文章の読みに関してであるが、単に心情を読み取ることではなく、人物の心情表現や叙述と関連付けて読むことにより、自らの読みをより確かなものにする。
エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。	・目的に応じた文章構造の理解をしながら読みを深めるなどの学習について示している。単に筆者の意見や感想を捉えることにとどまるのではなく、自分の立場からそれらの意見などについてどう考えているかにより、主体的な読みにつなげる。
オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。	・文章から知識、情報を獲得するための方法を身に付けるために効果的な読み方を体験的に学習することについて示している。日常学習の中で、読み方ということを意識して様々な言語活動を進めていくこと。

2 「読解」と「読書」

(1) 「読解指導」と「読書指導」の関係

「読書指導」と「読解指導」の指導において両方は、一線を画しては指導できない。読書が充分になされるためには確かな読解力が必要とされている。そのためには、国語科の中で言葉や文、文章を読み取る読解の技能を身に付けるのが、読書活動の第一歩である。又、身に付けた読解技能は、読書活動に生かされて始めて生きて働くものとなる。読解指導と読書指導は車の両輪のように助け合い、関連し合って読書活動を育していく。活字離れが進み言葉喪失の時代といわれる今日、「読解指導」と「読書指導」を組み合わせた国語科学習のあり方が重視される。「読解指導」と「読書指導」の関係を次ページに掲載した。



(「新版国語実践全集」 吉川 雅夫)

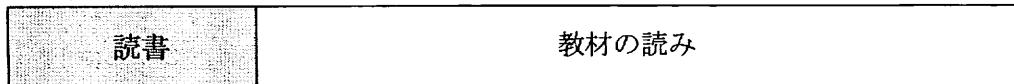
(2) 読書指導と読解指導の一元化

読書指導と読解指導を一元化するために、教科書教材に関連した図書や作品を様々に利用し、両方の目的を達成する学習指導過程を工夫する。文学作品の指導において考えを広げたり深めたりするために下記の読書指導と読解指導の一元化を活用する。主に、読書で読書指導を教材の読みで読解指導をする。

教材としての文学作品の読みと読書活動の位置付け

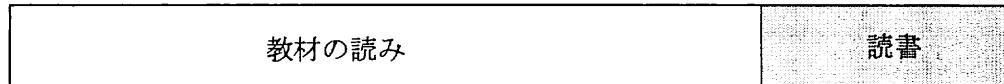
①<意欲喚起読書>

読書活動を教科書教材に入る前に位置付けることによって、意欲を喚起し、問題意識を教科書教材の読みの目標につなげていく。



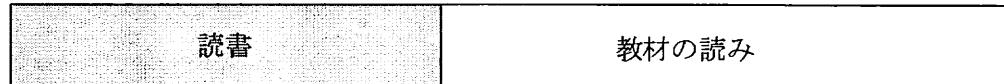
②<発展読書>

教科書教材で高められた意欲によって他の多くの本を読ませるものである。同じ作者の作品を読んだり、同じようなテーマの他の作者の作品を読んだりする。教材で学んだ視点を生かした読書活動を行うことによって教材の読みが広がったり深まったりする。



③<教材選択読書>

教材を含め、同じ作者の本を数冊、児童が読み、その中から学習したい作品を選ぶ。生活の中で読んでいる本が教材となることで、児童は興味・関心をもって読みの学習を進める。



④<並行読書>

あるテーマを探求するため、教科書教材を読みながら読書活動を並行させて行わせるものである。読書活動によって教材の読みが補完され、テーマに沿って内容をより深く読み取ることになる。



(「人間理解を深める文学教材の読み」 田近淳一 監修) 参考

3 考えを広げたり・深めたりする読みの工夫

(1) 教材との出会い

[ブックトーク]

図書そのものを紹介することであるが、テーマの決め方や取り上げる図書の選択と紹介の方法と順序を工夫することによって、児童の興味をいっそう増大させ、読書活動の前提となる読書への興味・関心を高めることができる。ブックトークは、児童と本を結びつける夢のある活動である。

本単元では、同一作者の作品を紹介し、これから学習する作者に興味を持たせるとともに、並行読書をねらう。紹介後は作品を教室の読書コーナーに置き、自由に読書活動をさせる。

[読み聞かせ]

読書に親しむ児童を育てることをねらいにしている。児童は、耳で言葉を聞き、目で絵を見ながら読む活動をしている。つまり、耳から聞いた言葉の世界と目で見た言葉の世界が、児童の中で一つになりイメージも広がっていく。読み聞かせは、読書活動への誘いとして重要な役割をしている。自ら読みたくなるような、想像力も培う大切な役目をしている。絵本は、読み切りで時間がかかるない。絵があるから、ほとんど本を読まない子を引きつけるし、本を読む子にも飽きさせない。

本単元では、教科書教材よりも挿絵が多い絵本を使用し、地域の読み聞かせボランティアのお母さんの協力も大いに生かし、教材とのすてきな出会いを図る。

(2) 主体的に読む活動

[読書のアニメーション]

「児童は誰でも『読み手』として成長する可能性を持っている。彼らを育むのは、読書の押しつけではない。ハラハラ、ドキドキ、ワクワク、思わず夢中になった心の体験がすべてである。」というのが「読書のアニメーション」の考え方である。活動を作戦（ゲーム）と呼び作戦のめざすゴールは、「理解し、楽しみ、深く考える」の三つである。これらを可能にするレクリエーション的要素のある読書こそ、子供の可能性を伸ばして未来を生き抜く力を蓄えるものである。作品を読み取る過程において、アニメーションを活用した読書活動を取り入れることによって、自ら進んで活動することが期待できる。いろいろなゲームがあるが、本単元では下記の5つのゲームを体験させる。

- ① 「ダウトをさがせ」…正しい文章と間違った文章を聞き間違った部分を指摘し答える。
- ② 「これ、だれのもの？」…話の中に登場する様々なものの絵を提示し、人物名を当てる。
- ③ 「この人いたかな？いなかったかな？」…登場人物の名前一覧表を提示し、登場したかを問い合わせ、どんな人物か説明させる。
- ④ 「そのカード、だれのこと？」…登場人物の言葉を出して、誰の言葉かを当てる。
- ⑤ 「物語バラバラ事件」…話の中の文や文章を書き出して、場面の順序を当てるゲームである。

(3) 読み広げる・読み深める

[重ね読み・比べ読み]

主教材と他の教材とを比較することにより、作者の思想や生き方に気づかせ、より深く読ませようとする物語文の指導方法のことである。この方法を用いることによって、主教材を再度検討させ、児童の読解力を向上・定着させることができる。複数教材の重ね読み・比べ読みという読書を経験させることは、児童の自己学習の方法が具体化され主体的な読みにより、読解後も興味が持続し読解と読書の一体化が図られ、自主的に発展的な読書活動に入ることできる。また、同一作者の作品の重ね読み・比べ読みは、一作品への理解が深まるだけでなく、作者への関心も高まる。本単元では、二作品を読み比べて読解力を育てるとともに、読書力をつけることをねらいとする。

[相互交流の場の設定]

自分の考えを伝え合うことは、発表の意欲のある児童だけでなく、発表が苦手な児童にとっても、友達の話を聞き自分と比べて考えを持つことができ、大きな励みになる。また、友達との対話を通じて「今まで気付かなかった叙述から、登場人物の心情に気付く」「お互いの考えを比べることで新たな考えに気付く」「自分の考えにより確信を持つ」など、いろいろな視点からの考えを関連付けるこ

とによって、さらに考えが深まる。交流の場の設定としては、最初は相手と自分、次に4人程度のグループ、最後に学級全体というように学習形態を工夫し、全体で意見交流ができるようにする。その場合、事前にみんなの考えていることが分かるように、全員の考えを表にして配布しておく。

- 考え方をまとめる…一人学びで、ワークシートに自分の考えをまとめさせる。
- おしゃべりタイム…友達同士、気軽に意見交流を始める。いろいろな相手と対話させる。
- グループ交流…自分の考えの根拠となった叙述を話し合い、質問したり、確認したりさせる。
- 発表…全体で話し合い、自らの考えを広げ深めさせる。

4 多様な活動を取り入れた学習過程の工夫

	主な学習活動	指導の手だて
教材と出会う	1. 教材文1を読み感想を持つ。 2. 感想を交流しながら、読み深めていくための学習計画を立てる。	ブックトーク 同じ作者の他の作品を紹介し並行読みの手だてをする。 エッセイ 授業の前と後にテーマに関わるエッセイを書き、考えの深まりを見る。 読み聞かせ 導入では絵本を使用して、児童がわくわくするような作品との出会いを作る。
教材をみ取る	3. 登場人物の特徴や心情を捉える。 4. 作品を読み深める。 5. 読み深めたことをもとに、友達同士で話し合いをする。 6. 主題について自分の考えをまとめる。	読書のアニメーション活動 アニメーション的手法を取り入れ楽しく読み深めるようする。問題を作ったり答えたりすることによって、文章を何度も丁寧に読み返すようする。 相互交流 どちらの考えが良いかという見方ではなく、友達と自分の考えを比べながらお互いの読みの交流をさせる。 ・一人一人の個性が見えるまとめる。
読み広げる	7. 教材文2を読み考え方を深める。 8. 意見交流会を開く。	重ね読み・比べ読み 主教材が持つ構造や工夫に気づかせ、より深く読ませる。また、読解と読書の一体化を図る。さらに、一作品の理解を深めるだけでなく、作者への関心も高める。 相互交流 友達の話を聞き自分と比べて感想を持つことができるようする。また、立松和平の願いや価値観に気づかせる。

III 授業実践

1 単元名 生き方や考え方を読み取ろう

2 教材名 「海の命」・「山のいのち」

3 単元設定の理由

- (1) 教材観 (省略) (2) 児童観 (省略)
 (3) 指導観

優れた文学作品の中には、その題名が作品のすべてを象徴的に物語っている場合がある。「海の命」・「山のいのち」は、まさにそのような作品である。児童はこれまで、「一つの花」(四年下)、「わらぐつの

中の神様」（五年下）などで、題名と関連させながら作品にこめられた思いを読み取る学習をしてきた。これまで学習してきた既習の力を適用しながら題名から作者の思いや願いを推測することを考えさせる。また、児童が意欲的・主体的に作品を読み取ったり、考えを深めたりできるようにつぎの手立てを工夫する。

単元に入る前に、教科書教材と同一作者の作品のブックトークから入る。数冊の本を紹介し児童の興味・関心を高め、並行読書をねらう。

目的意識を持って言語活動ができるようにするために、「命」について今考えていることをエッセイに書く。つぎに、「海の命」・「山のいのち」を学習した後また「命」について練り直し、考えの深まりがみられたか自己評価する。

導入の過程では、教科書ではなく絵本の読み聞かせを取り入れ、児童の興味・関心を喚起し、読むことに抵抗のある児童や活字に苦手な児童でも喜んで参加できるようにする。その際、地域ボランティアとして、毎週読み聞かせを行っているお母さんの協力を得、和んだ雰囲気で教材との出会いをする。

作品の概要を捉えたり、追求したりする過程では、主体的に読み進めるように児童自ら学習計画を立てる活動を位置付け、児童自身に見通しを持たせる。さらに、目的意識、相手意識、方法意識を明確にして言語活動ができるように読書のアニメーションの活動を取り入れ、作品の概要を捉えたり、作者の意図を推測したり、楽しく主体的に読み進められるようにする。

より深く読ませ、主題に対して考えを広げたり深めたりするためには、同一作者・同一テーマの作品の重ね読みをして共通点や相違点について読み取り、より自分の考えを深めていくようにする。

自分の考えを広げたり深めたりするためには、友達の意見と自分の意見を比べながら考えたり、友達同士気軽に意見交流をしたり、グループでの話し合いをしたり、全体での発表会などと相互交流の場を工夫する。

4 単元の指導目標

- ◎ 叙述に即して人物の考え方の変化を読み取り、主題について考える。(読むこと)
- ◎ 同じ作者の作品の重ね読みを通して命について考えを広げたり深めたりする。(読むこと)
- 主体的に物語を読み、人物の心情や生き方を捉えて考えたことを自分の言葉で表現しようとする。〔関・意・態〕
- 様子や感じを表す言葉の意味や使い方などを理解する。(言語事項)

5 単元の指導計画と評価計画

次 (時)	ねらい	学習活動	教師の支援	評価規準	
				[] 評価観点 () 評価方法	手立て
1 (1)	・ブックトークを聞き、命について自分の考えを持つ。	①ブックトークを聞く。 ②命についてエッセイを書く。	○ブックトークで立松和平の他の作品を紹介し、並行読みを勧める。 ○エッセイについて大きく理解させる。	・自分の感動や疑問が伝わるようになっていたか。 【関・意・態】発表・ワークシート	★友達の発表を聞いてヒントにし、考えさせる。
(2)	・全文を読み、感想を持つ。	①題名から連想されることを発表する。 ②絵本の読み聞かせを聞く。 ③「海の命」全文を通読する。	○導入では絵本の読み聞かせをして、子供達がわくわくするような作品との出会いをも。	・「海の命」について自分なりの感想を持つことができる。【読】	☆場面の展開、登場人物の行動・考え方方に目を向けてながら読みさせる。 ★絵本を使い登場人物の行動に目を向ける。
(3)	・読み深めていくための視点を持ち、学習計画を立てる。	①読み深めていくための視点を持つ。 ②学習計画を立てる。 ③新出漢字・語句を調べる。	○作品を読み深めるための手立てとして、共通の読みの視点を設定する。	・視点を捉え、意欲的に学習計画を立てることができたか。 【関・意・態】(行動観察・ワークシート) 【言語事項】ア (ア) ウ (ウ)	☆読み深めるために幾つかの方法を組み合わせるよう助言する。 ★登場人物の変化をおさえさせる。
(4) (5)	・作品の概要や登場人物の特徴を捉える。	①読書のアニメーションの活動をして読み進める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クイズ大作戦</div> ・児童が自ら作戦を選びクイズを出し合い活動を楽しむ。	○「クイズ大作戦」をさせる。 ・グループで問題を考え、出し合うことにより、本を深く読み込ませる。	・作品の概要や登場人物の特徴を捉えることができたか。 【読】(行動観察・ワークシート)	☆遊び感覚ではあるが単なるゲームにならないように注意する。 ★グループの友達と活動に参加させる。
2 (6)	・自分が選んだ方法で作品を読み深める。	①それぞれに選んだ方法で作品を読み深める。 ・人物同士の関わりの関係図	○これまで学習してきた物語の読み方を使って、できるだけ自分で作品を読み深めさせる。	・学習方法を選び、自分なりの方法で学習を進めることができたか。 【関・意・態】	☆読みの力を使って自力で作品を読み深めさせる。 ★例を挙げ、アドバイス

		・作品の展開のエピソード表 ・太一の心の変化の心情曲線	○学習活動例を提示し、自たちで選択し取り組ませる。	(行動観察・ワークシート)	スしながら書かせる。
(7)	・自分の考えをまとめ話し合いをする。	①個人で読み深めたことをもとに、おしゃべりタイムや、グループで話し合いをする。 ②友達の意見と自分の考えを比べながら聞く。	○ポイントを絞った話し合いをさせる。 ○どちらの考えがよいかという見方ではなく、お互いの考え方の交流だと意識させる。	・友達の意見を自分の考えと比べながら聞けたか。 ・自分の考えを工夫しながら話せたか。【話・聞】 (発表・ワークシート)	☆友達の考えと自分の考えを比べながら深めさせる。 ★友達の考えを聞いて考え方をまとめさせる。
3 (8)	・「山のいのち」を読み、「海の命」と読み比べ、感想を持つ。	①「山のいのち」の読み聞かせを聞く。 ②「海の命」との共通点・相違点を見つける。 ③「山のいのち」の主題を考える。	○読み比べをすることで作品の中から共通するものを意識させ主題に迫らせる。 ○多くの作品に親しめるような読書環境を工夫する。	・二つの作品の共通点・相違点や作品の主題をまとめることができたか。【読】 (行動観察・ワークシート)	☆「海の命」と比べながら、理由や根拠となる部分も書かせる。 ★二つの作品の共通点を見つけさせる。
本時 (9)	・「山のいのち」・「海の命」二つの作品を比べながら、主題を中心に考え方を話し合い、自分の考えを深める。	①「山のいのち」・「海の命」の部分読みをする。 ②前時にまとめたことを発表する ③二つの作品を読み比べて、話し合い、自分の考えを深める。	○いろいろな考え方があることを認るとともに、友達の意見を聞いて自分の考えを深めさせる。	・二つの作品を比べて話し合い、自分の考えを深めることができたか。【聞】 (行動観察・ワークシート) ・考えたことを意欲的に伝えたり、友達の考えを聞こうとしたりしているか。 【聞・意・態】 (行動観察)	☆発表されたことをもとに二つの作品の共通点・相違点やそれぞれの主題について話し合わせる。 ★前時のワークシートの内容を確認させる。
10	・学習を振り返って、「命」についてのエッセイを書いて、初めと比べる。	①自分の考えを深めた表現を利用しながら、初めて書いたエッセイを書き直す。	○引用の注意と語感の仕方を知らせる。 ○エッセイの構成は、初めの考えー引用した文ーその後の考えに統一する。	・命銀の深まり、広がりのあるエッセイが書けたか。【聞・意・態】 (行動観察・ワークシート)	☆引用文を自分の考えの内容に生かすようにさせる。 ★初めに書いたエッセイを手直しする。
(11)	・発表会を開く	①各自が書いたエッセイを発表する。 ②エッセイの根拠になった立松和平の作品について話し合う。	○作家を知って作品を楽しむ体験をさせてことで、読書生活をさらに広げさせる	・立松和平の作品を読んで自分なりの考えを持つことができたか。【聞・意・態】 (行動観察・ワークシート)	☆自分の考えの根拠を立松和平の作品の言葉や文から発表させる。 ★前時に書いたエッセイを発表する。

6 本時の指導

(1) 本時の指導目標

○教材「山のいのち」・「海の命」から読み取ったことを話し合い、自分の考えを深めることができる。
(読むこと)

○考えたことを意欲的に伝えたり、友達の考えを聞こうとしたりする。(聞・意・態)

(2) 授業の仮説

教材「海の命」と、同一作者の他の作品「山のいのち」を重ね読みし、交流の場を設定すれば、主題についての自分の考えが深まるであろう。

(3) 本時の展開 (9／11 展開の実際)

	学習活動	☆Aの子★Cの子への手だて ◎留意点	評価
導入 5分	<p>1 二つの作品の一部分を音読する。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「山のいのち」と「海の命」を比べて、考えたことを話し合い、自分の考えを深めよう。</p>	<p>◎児童の好きな場面を一斉読み・指名読みさせる。</p> <p>・女子4人で「海の命」の5の場面を希望して音読した。 『もう一度もどってきて、瀬の主は……大魚はこの海の命だと思えた。』 ・「山のいのち」のみんなが好きだった場面を全員で音読した。 『山には川が流れている。川には……ぜんぶがぐるぐるとまわっているんだよ。』 (導入として主題に迫るために適切な場面であった。)</p> <p>◎立松和平の作品「山のいのち」と「海の命」と読み比べて、考えたことを話し合う学習であることを確認する。</p> <p>・めあてを全員で確認したり、板書やワークシートでしっかりと</p>	

		確認した。	
	3 二つの作品の共通点・相違点を確認する。	◎児童の発表を中心にまとめていく。	
展開	<p>(海の命)</p> <p>題名が海の命。太一が主人公。海、魚、クエ、父と母、与吉じいさ、住んでいるところが海</p>	<p>相違点</p> <p>題名が山のいのち。静一が主人公、イタチ、山、虫、おじいさん、パパママ、山に住んでいる</p>	<p>(山のいのち)</p> <p>作者が立松和平・画家が伊勢英子、命について書かれている。おじいさんやお父さんお母さんが出てくる。生き物について書いてある。自然に関係している。2人とも成長している</p>
35分	<p>4 二つの作品から作者の思いをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達との交流を通してさらに考えを深める。 	<p>◎二つの作品の共通点から作者の思いをまとめさせる。</p> <p>☆立松和平の他の作品も考えさせる。 (「森に生きる」も並行読書した児童の考え方) ・二つの作品は、自然の命について書かれていると思います。 自然は、私達に優しさや厳しさを教えていたりと思います。</p>	<p>□考えたことを意欲的に交流しようとしているか。 〔関・意・態〕 (行動観察・ワークシート)</p>
まとめ5分	<p>5 発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互交流したことを述べ合う。 質問や意見、感想を述べ合う。 	<p>★作品の中から感動した部分を書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 両方の作品の心に残っている場面から似ていることを支援しながら考えさせると「命のことが書いてある」と答えていた。 <p>◎自分や友達の学びの良さに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> AさんBさんCさん達と話し合いをして、私の分からなかつたところを見つけることができました。それを付け加えることができました。話し合いをして良かったです。 <p>★友達の発表を聞いて自分の考えをまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなからいろいろなことを聞いて、自然は人を成長させることができた。 	<p>□「山のいのち」・「海の命」を比べながら、主題を中心に話し合いで、自分の考えを深めることができた。 〔説〕 (行動観察・ワーグナー)</p>
まとめ5分	<p>6 練り直す。</p> <p>7 自己評価をする。</p> <p>8 次時の学習を知る。</p>	<p>◎いろいろな考えがあることを認めるとともに、友達の意見を聞いて自分の考えを深めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は友達と話し合いをして、命にはむだがないことや、動物や生き物たちは支え合って生きているなど、「命の大切さ」を前よりもいっぱい知りました。 <p>◎自分を振り返らせ、次の学習への意欲付けを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使い、友達と考えの交流ができること、自分の考えが深まったことを確認させた。 <p>◎「命」のエッセイを見直し、練り直すことを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初に書いたエッセイを見せ、命観が深まつたことを自覚させ、次の学習を知らせた。 	

(4) 授業の分析と考察

本時では、作者の思いなどを深く読み取り、読み取ったことを友達と交流をして、さらに自分の考えを広げたり深めたりできることをねらいとした。以下は、授業で行われた重ね読みと友達との交流の分析・考察である。

① 重ね読みで考えが深まったか

教材「海の命」の学習で捉えた児童の主題は、次のようにあった。「大魚は海の命である。」「海にも命がある。」「太一はクエをおとうと思い、殺さないことで成長した。」

さらに、同一作者の他の作品「山のいのち」を学習し、二つの作品を読み比べた後の主題（作者の思い）は、「作者は生物や自然の命の大切さを太一と静一を通して教えようとした。」「二つの作品は、自然の命について書かれていると思います。自然は、私達に優しさや厳しさを教えていていると思います。そして、自然の恵みを下さっているのだと思います。」「立松和平さんの『山のいのち』『海の命』の太一と静一は、自然の命や生き物の命のことを学びながら、大きく成長しています。立松和平さんは、人は他の人からいろいろなことを学びながら成長できると言いたいのだと思います。」等であった。

二つの作品を重ね読みしたことで、主題についての児童の考えが深まり、作者の思いに充分迫ることが出来たといえる。

② 交流をして考えが深まったか

自分の考えをまとめて発表することが苦手な児童が多いため、相互交流を気軽な二人のおしゃべりから始めた。また、多くの友達の考えが分かるように、前時までに学習した、自分なりに捉えたみんなの主題を一覧表にして配布した。それを活用し、交流の輪を広げていた。交流後の児童の考えは次のようにあった。「僕は、地球上の生き物や自然の命を大切にしたいと思った。また、おじいさん、おばあさんからいろいろなことを学びたいと思った。こんな考えができたのは、みんなの意見を見たり聞いたりしたので、考えが深まったからです。」「私は、D子さんと交流して、自然はむだがないと言うことを教えてもらいました。私はD子さんと交流して良かったと思います。」「友達と交流して、太一と静一の生き方を通して『自然のすばらしさ』や『命の大切さ』を、前よりも深く知った。」「私は、自然界はぐるぐる回っていてむだがないと言うことを、EさんやF子さんやG恵さんと交流してわかりました。作者は命の大切さを、本を通して教えてくれました。」等である。

このように交流することによって、互いの考えを認め合い、友達の考えをもとに自分の考えを見直したり、より確信を持ったりするなど、児童の考えを広げたり深めたりすることが出来た。

IV 研究の考察

1 教科書教材とそれに関連する他の教材の重ね読みで考えを広げたり深めたりできたか。

ブックトークで立松和平の作品「海の命」「山のいのち」「おじいさんの机」「街のいのち」「川のいのち」「黄色いボール」「森に生きる」「縄文杉に出会う」「最後の清流四万十川に行く」を紹介した。その中で教材2に「山のいのち」を選択し、他の本は並行読書を勧めた。児童は全員が1冊以上読んでいた。

教材1「海の命」の主題を児童は、「クエはこの海の命である。」「太一は瀬の主を殺さないことで成長した。」と捉えている。教材2「山のいのち」の重ね読みに入ると、「自然はぐるぐる回っているからむだがない。人間や動物などの生き物は、支え合って生きている。」と表現し、根拠となる文をしっかりと捉え、自分の考えを広げ深めていた。さらに、「作者は、命の大切さを太一や静一を通して教えてくれている。」と、作者立松和平の思いや願いまで思いを巡らせていて、充分自分の考えを広げたり深めたりできたといえる。

2 相互交流で考えを広げたり深めたりできたか。

友達との交流の場面では、2~3人の交流から大勢の交流までできていた。ある児童は、「Aさん、B子さん、Cさん達と話し合いをして、私の分からなかったところを3人は書いてありました。それを付け加えることができました。話し合いをしてよかったです。」と書いていた。

このように、深まった自分の考えと互いの考えを比べたり、互いの良さを認めたり、新たな考えに気付いたり、自分の考えを確かなものにしたり、いろいろな視点から関連付けて考えたりし、自分の考えを広げた

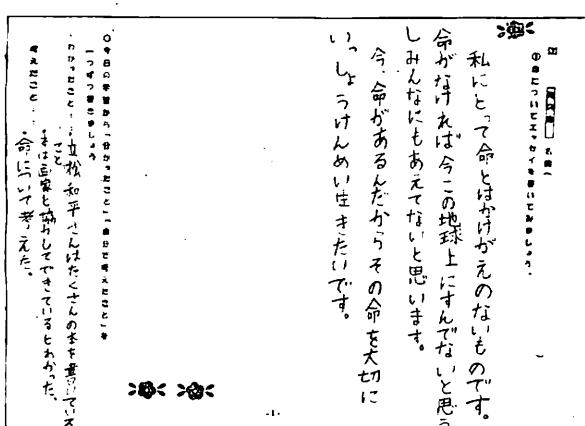
り深めたりできたといえる。また児童から「交流してない人はどのような思いを持ったのか知りたい」と要望があり、次の授業にみんなの深まった考えを一覧表にして配布し、さらなる交流の手立てとした。

授業後に行ったアンケート表①の結果、楽しく学習できた(100%)、重ね読みをして作者の思いがよくわかった(82%)、友達と交流して考えが深まった(85%)、であり、今回の授業は有効であったといえる。

また、「命」をテーマに授業の前と後にエッセイを書くことを告げ、目的意識を持って言語活動に取り組ませた。授業前後に書いたエッセイを比較すると、命観が深まったことが分かる。資料1で1児童のエッセイを紹介する。

表1 授業後のアンケート(28人)

項目	よで きた	まあ きた	あ り で き な い
楽しく学習することができた。	23	5	0
重ね読みをして、作者の思いがよくわかった。	16	9	3
友達と交流して考えが深まったく。	24	2	2



資料1 授業前のエッセイ



授業後のエッセイ

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 二つの教材を読み比べることにより、作者の思いがより伝わることが分かり、同一作者の他の作品も読もうとする意欲が見られた。
- (2) 交流する活動では、お互いの考えを素直に認め、友達の考えと比べたり、良いところを取り入れたりして、児童の考えに広がり深まりが見られた。
- (3) エッセイ、ブックトーク、読み聞かせ、アニメーション、重ね読み、考えの交流など多様な言語活動を取り入れることにより、変化のある授業になり、文学教材の学習に対する児童の興味・関心が高まった。

2 今後の課題

- (1) 同一作者の作品コーナーを充実させ、読書環境を整えて充分味わわせ、作家を知って作品を楽しむ体験から、さらに読書生活を広げたい。
- (2) 児童の意欲を高め学習の深化を図るために、交流の場において、充分練り合う交流の仕方の指導の工夫をしていきたい。
- (3) 国語科の限られた時間の中で、読みが深まるような複数教材の位置付け方と、「話す・聞く」という音声言語活動との関連を考慮した学習過程を工夫する必要がある。

<主な参考文献>

小森 茂／松野洋人	『キーワードでわかる新国語科』	国土社	2000年
白石範孝	『10の観点で読むアニメーションゲーム』	学事出版	2003年
石田佐久馬編集	『文学教材でなにをどう学ばせるか③—高学年—』	東洋館出版社	1991年